

稲作だより

第2号

令和5年4月10日発行
山形おいしさ極める！
米づくり日本一プロジェクト
西村山農業技術普及課
TEL：0237-86-8287

**平年よりかなり高い気温が続く見込み。
きめ細やかな管理で健苗育成を！**

【育苗時の施肥】

- ☑ 基肥施用量は窒素成分で **2g/箱**を基準とします。
- ☑ 購入培土を使用する際は、保証成分量を確認して、苗の種類に応じて追肥します（表1）。

表1 追肥時期の施肥量

苗の種類	追肥時期	施肥量(窒素成分量)
稚苗	1.8葉期	1g/箱
中苗	2.0葉期と3.0葉期	1g/箱

育苗用肥料に緩効性肥料を使用している場合、追肥は不要です。

【浸種】

- ☑ 水温 **10℃～15℃**、積算温度（日平均水温×日数）で「**120℃**」を目安に浸種を行いましょう。
【注意点】水温は10℃以上（浸種開始時の水温が低いと、発芽率が低下することがあります）
水温は15℃未満（水温が15℃以上になると、ばか苗病の発生リスクが高まります）
- ☑ 浸種時は2～3日ごとに水を交換し、時々種子袋の上下を入れ替えるなどして、酸素不足や温度ムラにならないよう管理しましょう。定期的に適切な水温が保たれているか温度計で確認しましょう。

【催芽】

- ☑ 30～32℃の温湯に、芽と根が **1mm** 程度出た「ハト胸状態」になるまで浸します。十分に浸種した種籾であれば、約20時間で「ハト胸状態」になります。
- ☑ 出芽揃いを良くするため、**9割以上**の芽切れを確認しましょう。※伸ばしすぎないように注意

【播種】

- ☑ 苗種に応じて、適正な播種量（乾籾重）と育苗日数を順守しましょう（表2）。
- ☑ 田植適期（5月15～20日）から逆算し、適正な時期に播種作業を行いましょう（表3）。

表2 苗の種類別の播種量と育苗日数

苗の種類	乾籾重(g/箱)	葉数	育苗日数	必要箱数
稚苗	150～180	2.5枚	20～25日	22箱/10a
中苗	80～120	3.5枚	30～35日	27箱/10a

表3 田植日を5月20日とした例

4月																														5月					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	...	20	21		
											浸種日																		催芽日		播種日		田植日		
											●																		●		●		}}		
浸種日																				催芽日		播種日		田植日											
●																				●		●		}}											

- ☑ 播種時の灌水は覆土前に行い、覆土に水が染みってくる程度を目安にしましょう。
- ☑ 育苗マットを用いる場合は、多めに灌水しましょう。

【育苗初期の温度管理】

稚 苗（育苗期で出芽する場合）			中 苗（無加温で出芽する場合）		
出芽期（2日程度）	30～32℃		出芽揃いまで	20℃以上	
緑化期（3日程度）	昼 間	夜 間	出芽期～ 1.5葉期	昼 間	夜 間
	20～25℃	10℃以上		30℃以下	5℃以上
緑化期以降	15～20℃	5℃以上	1.5葉期以降	15～20℃	5℃以上

【出芽揃いまでの管理】

- ☑ 【無加温出芽の場合】 出芽揃い後も被覆を続けると軟弱苗になるので、芽の長さが覆土から **5～10 mm** になったら被覆資材を外す。
- ☑ 【加温出芽の場合】①必ず芽の伸びを確かめて育苗器から苗箱を取り出す（育苗器に入れる目安は2日間）②事故防止のため、温度調節器（サーモスタット）は使用前に必ず点検し、温度計で実際の温度とズレがないか確認する。
- ☑ 温度計は2つ（①ハウスに吊り下げて苗の高さに設置、②苗箱の土中に差し込み）準備し、苗の近くの実際の温度を確認しましょう。

【アルミ蒸着シート使用時の注意点】

- ☑ アルミ蒸着シートを使用する場合は、好天時に播種を行い、苗箱を並べた後、苗床の温度が **20～30℃** となるように日光で温めてからシートを被覆して、シート内の適切な温度を確保しましょう。
 - ☑ 苗床の温度が、32℃を超えると高温障害の発生リスクが高まるので、温度計で必ず温度を確認しましょう。
- ※出芽揃い後も被覆を続けると、苗は軟弱徒長になります。出芽後は速やかに資材を外しましょう。

【土づくり】

- ☑ 毎年継続して土づくり肥料（ケイカル・ようりん等）を施用することで、水稻の活力を高めましょう。
- ☑ **15 cm**の耕深を確保し、根の伸長を促しましょう。

【基肥(速効性肥料)、基肥一発肥料(緩効性肥料)の施用時期】

- ☑ 【基肥(速効性肥料)】 圃場に施用された後、時間の経過とともに流出します。
 - **基肥(速効性肥料)**は、できるだけ代かきの直前に施用しましょう。
- ☑ 【基肥一発肥料(緩効性肥料)】 田植日を施肥日として設計しているため、施肥から田植までの間隔が長くなると、生育後半に窒素が不足する恐れがあります。
 - **基肥一発肥料(緩効性肥料)**は、田植え 10 日前以内の施用を心がけましょう!!

STOP 農作業事故!! 農薬適正使用を徹底!!

⇒ 次号「育苗後期」「本田準備」編は4月25日発行予定です。